



歳時記のある暮らし

二〇二一年 《十月》

空は高く澄み渡り快適な季節となりました。

皆様、おすこやかに過ごしてはいかがでしょうか。

いつも『神秘の健康力』をご愛用いただき誠にありがとうございます。

十月は汗ばむ日もありますが少しずつ秋めいてきます。太陽高度が低くなり影が長く映ります。空気が澄み渡る朝、紅葉が始まる桜や欒の葉末に陽光が当たると光と影のコントラストが鮮やかで美しいものです。夕焼けに染まる広大な空も美しい季節です。

「秋は夕暮。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥のねどころへ行くとして、三つ四つ、三つ三つなど飛びいそぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるがいと小さく見ゆるは、いとをかし。」清少納言の「枕草子」の一節です。高く広がる秋の夕焼け空を背景に、北の空から渡って来た雁が群れを成して列を保ちながら飛んでいる景色は大パノラマですね。日本文学では秋の夕暮れが和歌でも多くの作品に登場します。

はなれゆく人もつめり秋の暮

山上樹実雄

「つるべ落とし」といわれるように、あつという間に日が沈む秋の日。ひんやりとした空気感が漂うなか誰かを見送っているのでしょう。夜の闇が降りる直前、離れ行く人の後ろ姿をオレンジ色の夕焼けが包み込むような光景が伝わってきます。「つめり」という言葉に、穏やかで優しい秋の夕暮れを願う見送る人のまなざしが感じられます。

野山ではアケビや山葡萄が実り、栗や梨、柿が食べごろを迎えます。読書にスポーツにグルメに芸術に快適な秋です。感覚が冴えクリエティブな気分になれるこの季節。だんだん色づく木々の変化を観察することも散歩の楽しみとなります。

黄金に輝く大銀杏を見上げていると、何故かゴッホの「ひまわり」を連想します。狂気性や精神不安定な印象のあるゴッホですが、不思議と絵画を見てみると落ち着きます。ひまわりといえは夏の花ですが、あの黄色の油絵の具が何層にも重なったデコラティブなひまわりの、頭を重たそうに傾げる様子は、灼熱の太陽を仰いで花を咲かせるためのエネルギーを使い果たし

(裏面へ続きます)

最後の方をふり絞って咲き誇っているようで、まるで落葉する前、燃えるように輝く紅葉のような力強さを感じます。独特な明るい色彩のゴッホの絵は、場を温かく華やかにします。ゴッホは生前「アブサン」と呼ばれるお酒を好んでいたといわれます。主原料はニガヨモギ。漢名は苦苣苔(くじがい)という植物からつくられる薬草酒のひとつで、フランスでは医薬品として流通していたそうです。このニガヨモギに含まれるツヨンという成分に大麻に似た作用があることから中毒者も多く「禁断のお酒」と呼ばれていたようです。アブサンは感性やインスピレーションを引き出す霊酒として、ゴッホのほかにもゴッガン、モネ、ロートレック、ピカソなどの芸術家に愛飲されていたそうです。芸術の秋を掘り下げて、作品の時代性や人物像、エピソードに思いを馳せるのも面白いものです。

秋が深まり十月も終わりに近づく、と街中がかぼちゃだらけになります。ハロウィンはこの間に、クリスマスやバレンタインと同じくらい定着しました。もともとハロウィンはブリテン諸島に住んでいた古代ケルト人のお祭りでした。ハロウィンの十月三十一日はケルト人たちにとって一年の終わり、つまり大晦日に当たる日でした。この日は「お盆」でもあり、先祖の霊がこの世に来るのですが、同時に悪霊や精霊もやって来ると信じられていました。ハロウィンにかぼちゃのおぼけを飾ったり、おぼけや魔女のように仮装する理由は、「私も悪霊だよ」と悪霊をだまして、自分たちに乗移らないようにするためだったといわれます。

十月は「涼しい」から「寒い」へと季節が進みます。そろそろ冬用の衣類や靴を準備し、寒くなったらいづでも着られるようにしておきましょう。急にやって来る夜の冷え込みのために寝具もそろえておきましょう。暖房器具は使う前に安全点検を行い、エアコンの暖房はフィルターなどの掃除を済ませておきたいですね。乾燥する季節に欠かせない加湿器も衛生的に使用するために掃除しておきましょう。

上着をもう一枚羽織るかどうか、玄関先で迷うことも多くなるころです。季節の変わり目の体調管理に十分お気をつけいただき、素敵な秋をお楽しみください。

皆様のご健康をお祈り申しあげます。

金氏高麗人参株式会社

おもてなし係お手紙担当 久郷直子

